

Shin-Etsu

信越ポリマー株式会社

第2四半期 第61期 報告書

2020年4月1日~2020年9月30日



Shin-Etsu
Shin-Etsu Polymer Co., Ltd.

証券コード:7970



株主の皆様へ



代表取締役社長
小野 義昭

おかげさまで創業60周年を迎えました。

新型コロナウイルス感染症の拡大による厳しい外部環境の中、たゆまぬ研究開発で技術を磨き、持続可能な社会の実現に貢献しうる事業活動を展開してまいります。

■ 当中間期の事業概況について

当中間期は、半導体関連容器の出荷が堅調に推移したものの、自動車関連入力デバイスの出荷が低調に推移するなど、全体としては前年同期比で減収減益となりました。

半導体業界の底堅い需要を背景に300mmウエハー用出荷容器を中心として出荷が堅調に推移し、半導体関連容器は売上げを伸ばしました。しかしながら、自動車関連入力デバイスは、コロナ禍の影響を受け、受注が低迷するだけでなく、生産活動を止めざるを得ない状況も重なり、収益を確保できませんでした。また、塩ビ関連製品の食品包装資材や建設資材、自動車関連の素材系製品が需要低迷の影響を受けて、前年の収益を下回りました。

■ 連結業績ハイライト

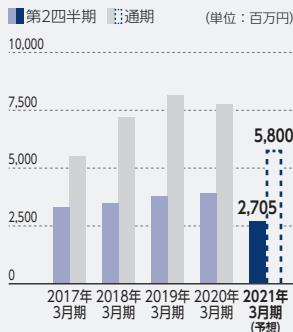
売上高

35,791
百万円



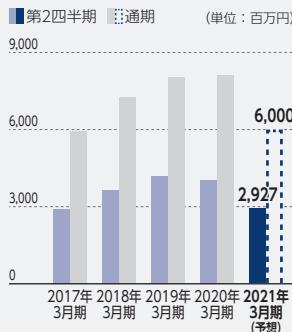
営業利益

2,705
百万円



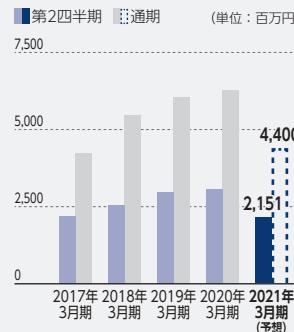
経常利益

2,927
百万円



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

2,151
百万円



業績についての詳細はこちらもご覧ください

<https://www.shinpoly.co.jp/ja/ir/finance/highlight.html>



■ 中長期の事業方針について

創業60周年のその先のステージを見据え、安定的・長期的な成長を視野にグループ一丸となって邁進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

当社の事業の大きな柱は自動車用キースイッチをはじめとする電子デバイス事業、半導体関連容器を中心とする精密成形品事業、ラッピングフィルムなどを扱う住環境・生活資材事業です。

今後は主力である自動車、半導体の関連分野の一層の充実はもちろん、それらに次ぐ大きな柱の確立が、さらなる発展へのキーファクターとなります。ウエハーケースなどの分野で世界トップクラスのシェアを誇る樹脂加工メーカーとして培ってきた強みを活かし、高付加価値製品の成長の芽をいくつも伸ばしながら、確実に利益を生み出す体制を整えてまいります。

当社の継続的な発展の原動力となるのが、研究開発です。ものづくりへの不断の挑戦によって得られた知見は、当社従業員を育て、技術の進歩を促します。技術力の向上を怠らず、質の高い製品を上市し続けて、確たる成長を維持してまいります。

また、雇用を守り、安心・安全で働きやすい職場環境を提供し続けることで、安定的な経営を継続し、高い競争力を堅持してまいります。

企業が果たすべき社会的責任はますます大きくなっております。当社はCSRを基盤とした経営を掲げ、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献すべく、社会に有益な製品の展開に注力してまいります。

■ 株主配当について

年間配当予想は前期と同額の1株当たり18円とさせていただきます。

2021年3月期はコロナ禍の厳しい外部環境の中、生産・販売を効率化することにより、収益を確保してまいります。

利益還元については、基本的に安定的な配当を継続する方針です。短期的な業績だけに連動させるのでは

なく、当社の中期的な成長という視点も踏まえた還元に向けてまいります。

今後の経営環境には不透明な要素もありますが、「営業」「開発」「生産」の三位一体で、業績と企業価値のさらなる向上に取り組みます。株主の皆様におかれましては、変わらぬご理解とご支援を賜りたく存じます。

2021年3月期業績予想

売上高	74,000百万円 (前期比7.8%減)
営業利益	5,800百万円 (前期比25.2%減)
経常利益	6,000百万円 (前期比25.9%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	4,400百万円 (前期比30.0%減)

配当金の推移

■ 第2四半期 ■ 通期

(単位：円)



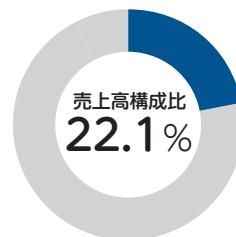
事業の概況

電子デバイス事業

売上高
7,924百万円
(前年同期比21.7%減)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による自動車業界の需要低迷等により、自動車関連入力デバイスを中心に出荷が低調に推移し、全体として売上げは前年を下回りました。

この結果、当事業の売上高は79億24百万円（前年同期比21.7%減）、営業損失は32百万円（前年同期は7億92百万円の利益）となりました。

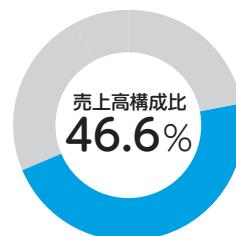


精密成形品事業

売上高
16,673百万円
(前年同期比1.9%増)

半導体関連容器やキャリアテープ関連製品の堅調な出荷が続きましたが、全体として売上げは前年並みとなりました。

この結果、当事業の売上高は166億73百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は25億54百万円（前年同期比1.9%減）となりました。

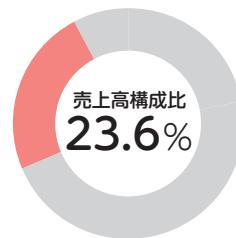


住環境・生活資材事業

売上高
8,445百万円
(前年同期比12.6%減)

市場環境が非常に厳しい中、外装材関連製品や新規事業製品の拡販などを推し進めましたが、食品包装資材や建設資材、自動車関連の素材系製品が需要低迷の影響を受けて、全体として売上げは前年を下回りました。

この結果、当事業の売上高は84億45百万円（前年同期比12.6%減）、営業利益は89百万円（前年同期比75.4%減）となりました。

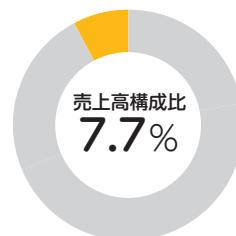


その他

売上高
2,748百万円
(前年同期比33.8%減)

工事関連では、新型コロナウイルス感染症拡大による需要低迷の影響により、首都圏を中心に商業施設の新築・改装物件、公共施設の内装物件の受注が減少し、全体として、売上げは前年を下回りました。

この結果、その他の売上高は27億48百万円（前年同期比33.8%減）、営業利益は93百万円（前年同期比43.5%減）となりました。



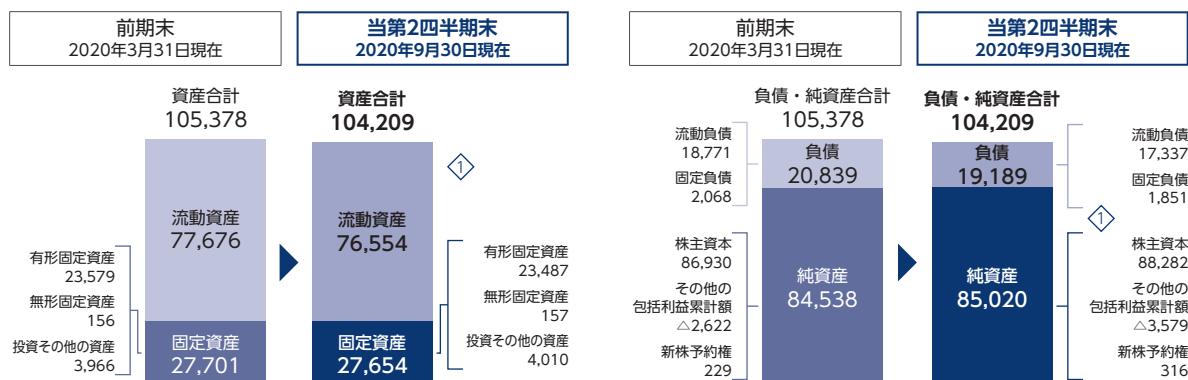
連結財務諸表の概況

POINT

- ◆ 総資産は現金及び預金が増加しましたが、売上債権の減少などにより、前期末と比較して11億68百万円減の1,042億9百万円となりました。純資産は、円高により為替換算調整勘定が減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより、前期末と比較して4億81百万円増の850億20百万円となりました。
- ◆ 当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は前期末と比較して30億93百万円増加し、447億69百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フロー（以下CF）は、売上債権の減少などにより59億57百万円の収入、投資活動によるCFは、設備投資などにより14億35百万円の支出、財務活動によるCFは、配当金の支払などにより8億82百万円の支出となりました。

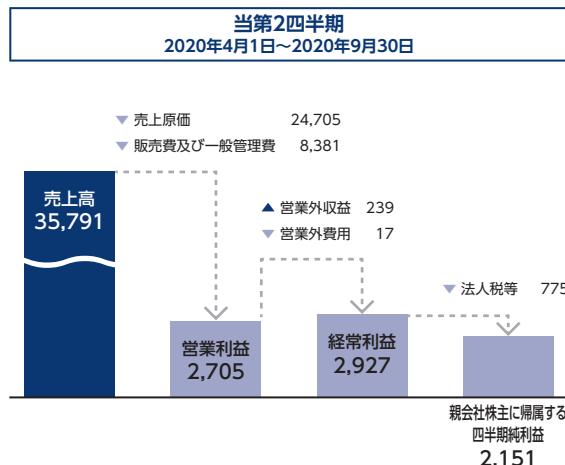
連結貸借対照表の概要

(百万円)



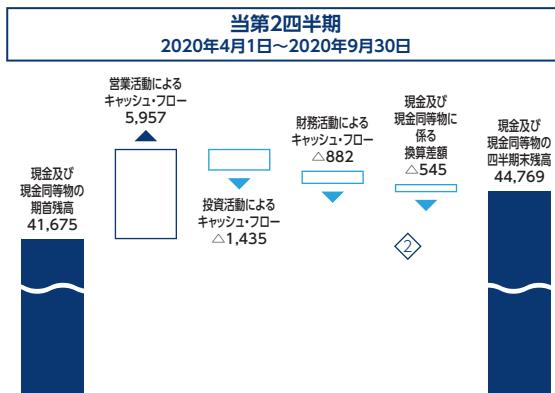
連結損益計算書の概要

(百万円)



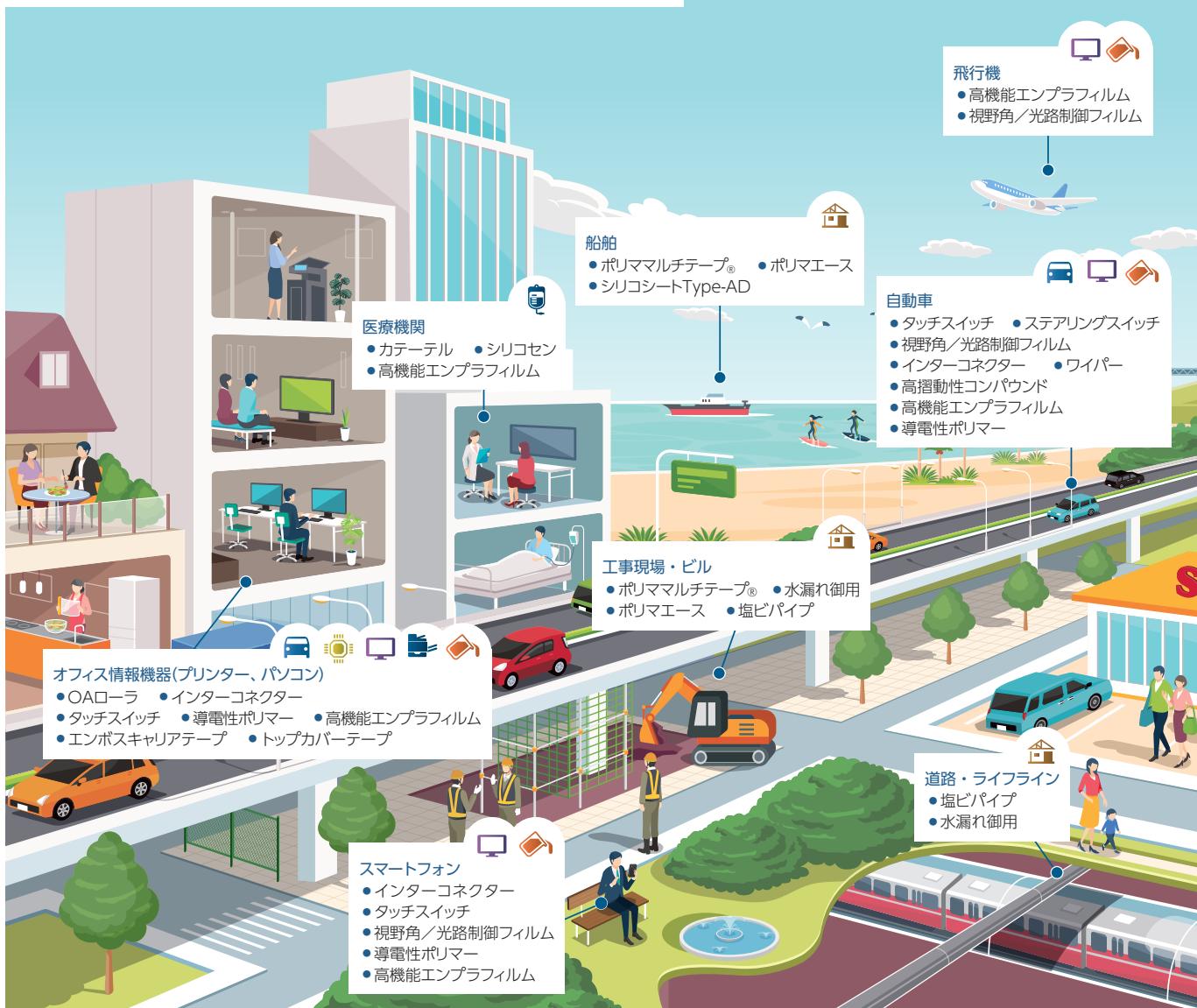
連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)



【特集】 こんなところに信越ポリマーの製品

信越ポリマーは、長年にわたり培った技術力を活かした各種製品で、暮らしと産業を支えています





トピックス

「ゼロカーボン埼玉」実現に向け、CO₂超過削減量を寄付

埼玉県のカarbonオフセットに係る取り組み「ゼロカーボン埼玉」に協力するため、当社の東京工場及び児玉工場が、CO₂超過削減量 16,514 t-CO₂を埼玉県に寄付し、8月に県よりお礼状が授与されました。これは第1計画期間（平成23年～26年）において、両工場が埼玉県地球温暖化対策計画に則って努力したものです。当社グループは、持続可能な発展をめざした循環型経済社会の構築に積極的に参画しており、これからもグループ全体で省エネルギー、省資源、環境負荷物質低減等の地球環境保全に向けた取り組みを、推進してまいります。

株主アンケート結果報告

第60期報告書においてお願いいたしました「株主アンケート」に多くの株主の皆様からのご回答を頂戴いたしました。心から御礼申し上げます。株主の皆様からいただきましたご意見・ご助言を真摯に受け止め、今後の事業運営や本報告書のさらなる充実を活かしてまいります。

皆様のご意見・ご感想に関する当社の回答



ESGへの取り組み、特に環境への取り組みを充実させてほしい。



ご意見いただきましてありがとうございます。当社では、環境基本方針に基づき、環境負荷低減に貢献する製品開発やグループ全社活動「グリーン運動」に継続的に取り組んでおり、今後もCSR・ESGの取り組みへの強化を図ってまいります。また、当社グループの地球環境保全や環境経営に関する考え方、取り組みと実績を中心に、CSRにかかわる活動についてもサステナビリティレポートで報告しています。最新版「サステナビリティレポート2020」を9月に発行いたしました。ホームページからもご覧いただけますので、以下のQRコード等をご利用ください。

QRコード



<https://www.shinpoly.co.jp/ja/environment/report.html>

会社の概況 (2020年9月30日現在)

商号	信越ポリマー株式会社 (Shin-Etsu Polymer Co.,Ltd.)
本社所在地	東京都千代田区神田須田町一丁目9番地
設立年月日	1960年9月15日
資本金	11,635,953,759円
従業員数	1,028名(連結4,552名)
事業所 支店・営業所	大阪支店、名古屋支店、福岡支店、 仙台営業所、広島営業所、札幌営業所
工場	東京工場、児玉工場(以上、埼玉県)、 南陽工場(山口県)、塩尻工場、 長野分工場(以上、長野県)、 糸魚川工場(新潟県)

株式の状況	
発行可能株式総数	320,000,000株
発行済株式総数	82,623,376株
株主数	9,213名

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせたいため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7970

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

- アンケートのお問合せ
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告(https://www.shinpoly.co.jp/) なお、やむを得ない事由によって、電子公告 によることができない場合には、日本経済新聞 に掲載して行います。

株式に関するお手続き

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物 送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金 受取方法 の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 *トラストラウンジでは、お取扱 できませんのでご了承ください。 みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店 ブラネットブース(株式会社み ずほ銀行内の店舗)でもお取扱 いたします。
未払配当金 のお支払	みずほ信託銀行株式会社 株式会社みずほ銀行	本店及び全国各支店 本店及び全国各支店 (みずほ証券株式会社では、取次のみとなります。)
ご注意	支払明細発行については、 右の「特別口座の場合」 の郵便物送付先・電話お 問合せ先・各種手続お取 扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買 取・買増以外の株式売買はできませ ん。証券会社等に口座を開設し、株 式の振替手続を行っていただく必要 があります。

単元未満株式買増・買取のご案内

当社では、単元未満株式(1株から99株まで)の買増制度・買取制度を導入しておりますので、ご利用ください。
お手続きの詳細は、上記記載のお取扱店にお問い合わせください。

信越ポリマー株式会社

〒101-0041

東京都千代田区神田須田町1-9

電話 (03) 5289-3712

ホームページアドレス <https://www.shinpoly.co.jp/>

創立60周年を迎え、WEBサイトをリニューアルしました

